

さいたま市長10月定例記者会見

平成28年10月27日(木曜日)

午後1時30分開会

○ 進 行 定刻となりましたので、ただいまから市長定例記者会見を始めさせていただきます。

それでは、記者クラブ幹事社の読売新聞さん、進行をよろしく願いいたします。

○ 読売新聞 よろしく申し上げます。10月の幹事社を務める読売新聞です。

本日の記者会見の内容につきまして市長からご説明をお願いいたします。

○ 市 長 皆さん、こんにちは。

浦和レッズがルヴァンカップで優勝を果たし、さらにJリーグセカンドステージ優勝に王手がかかっている状況でございます。また、大宮アルディージャも年間成績が4位に浮上し、来季のアジアチャンピオンシップ出場権獲得の可能性も残しております。

これは、全国で唯一、ホームタウンとしてJ1に2チームを有するサッカーのまちさいたま市としても、大変うれしく、また誇らしいことでもあります。両チームの勝利に向け、私も皆さんと一緒に熱い声援を送りたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、議題の説明に移らせていただきます。

市長発表：議題1「第2回さいたま国際マラソンを開催します」

まず、議題の1つ目でございます。「第2回さいたま国際マラソンを開催します」についてでございます。

開催日は11月12日土曜日、そして13日の日曜日でございます。ここの大会は、一般フルマラソンの制限時間を6時間といたしまして、参加者を1万6,000人といたしました。フルマラソンを行う前日の12日、土曜日には駒場ファンランと称しまして、車いすの部、親子ランの部、リレーマラソンなどを駒場運動公園内の特設コースで実施するなど規模を大幅に拡大して開催いたします。

ランナーのエントリー状況をご説明させていただきたいと思います。エ

ントリー全体といたしましては2万35人であります。代表チャレンジャーの部では、公認大会で3時間30分以内の記録を持つなどの条件のもとに251人がエントリーいたしました。招待選手は、日本陸上競技連盟などから発表されることになっております。

一般フルマラソンの部は、さいたま市民優先枠が3,000人、そして埼玉県民優先枠が500人を含めまして、1万6,055人がエントリーしております。また、8キロメートルの部では1,114人がエントリーしております。

また、車いすの部では22人、親子ランの部につきましては764組1,528人、1.5キロメートルの部では500人、またリレーマラソンにつきましては96組565人が出場エントリーをされております。

リレーマラソンに関しましては、競技内容が理解しづらかった面があると考えられます。次回大会に向けまして、ことしのファンランの楽しい様子や参加者の感想などをもって、わかりやすくPRしていきたいと考えております。

続きまして、競技内容についてご説明をさせていただきます。13日の日曜日9時10分にスタートする代表チャレンジャーの部、そして9時40分にスタートします一般フルマラソンの部と8キロメートルの部は、ともにさいたまスーパーアリーナをスタートしまして、吉敷町のガードを経て旧中山道を南へ進み、元町通りから駒場運動公園交差点を經由しまして国道463号線に入り、東へ進んでまいります。8キロメートルにエントリーした方はこの駒場スタジアムでフィニッシュになりますけれども、フルマラソンとしてエントリーされた方はさらに国道463号を東に進み、埼玉スタジアム周辺を行きまして、越谷の神明町交差点から折り返しをして、そして最後埼大通りを北浦和のほうに上がっていきまして、その後国道17号を上げて最後フィニッシュとなります。

また、前日の駒場ファンランについてご説明させていただきます。駒場運動公園に特設コースを設置して開催いたします。8時から会場に入ることができます。9時半にスタートいたしますのが車いすの部でございます。22名の方々がエントリーしておりまして、約1キロメートルのコースはごらんとおりでございます。こちらからスタートいたしまして、このよ

うに1周回って戻ってくるというコースでございます。

そして次に、10時にスタートします親子ランの部には、764組1,528名の方がエントリーをしております。コースにつきましては、このように回って最後こう回っていくというコースで、先ほどより500メートル長いコース設定をしております。

ちなみに車いすの部と親子ランの部につきましては、走ることを楽しんでいただくということを主にしておりますので、タイムによる計測はいたしません。また、参加者全員に参加賞、マフラータオルを差し上げます。そして、完走した方全員に完走証をお渡しさせていただきます。

続きまして、1.5キロメートルの部ですが、中学生、それから小学生女子、小学生男子と、カテゴリーについては3つに分けて行います。まず、10時半に中学生の部120名がスタートいたします。次に、11時に小学生女子の部139名がスタートいたします。次に、11時半に241名の小学生男子の部がスタートいたします。この(部門の)表彰式は11時45分に駒場スタジアムのメインスタンドで行わせていただきます。

表彰につきましては、小学校4年生男子の1位から8位、同じく5年生の1位から8位、6年生の1位から8位、これは女子も同様でございます。女子も1位から8位と。そして、中学生につきましては、中学生男子の1位から8位、女子の1位から8位の皆さんを表彰させていただきます。参加者全員にマフラータオルと完走した全員に完走証をお渡しします。

次に、リレーマラソンについてでございます。これは96組565名の方がエントリーをしております、13時からスタートします。ごらんとおり1.2キロのコースを2時間30分間にどれだけ回れるかということで競われます。時間内に何度でも選手の交代ができるというものでございまして、15時45分から駒場スタジアムのメインスタンドで表彰式を行います。1位から3位とベストドレッサー賞、ナンバー賞が送られます。職場や学校、クラブ活動、地域団体など、さまざまなグループが参加する予定となっております。

また、リレーマラソンにつきましては、ゲストランナーといたしまして女子プロ野球の埼玉アストライアの皆さん、プロ野球独立リーグの武蔵ヒートベアーズの皆さん、そしてNACK5から番組パーソナリティーの方

がチームを組んで参加される予定となっております。駒場ファンランにつきましても、ランナーだけではなくて、応援する方々など御来場の方々に楽しんでいただける企画となっております。

北浦和駅の東口、それから浦和駅の東口の各商店街の皆様のご協力によりまして、お手元に配付しております10の飲食ブースを会場内に出店いたします。また、同じ商店会のご協力によりまして、配付資料の17店舗でさいたま国際マラソンのナンバーカードを提示することで会計時に飲食物などを割引していただけるようになっております。

翌日の代表チャレンジャーの部やフルマラソンの部を盛り上げる意味でも、またお祭り気分、競技中はもちろん、競技後もご友人と楽しんでいただきたいと思っております。

今回の大会のコンセプトは、これまでどおり「ここから、世界へ。」でございます。この「ここから、世界へ。」というコンセプトを具体化する事業もごらんとおり実施をしております。

まず、「未来をつくる子供たちに夢と希望を贈る大会となす」というコンセプトについて具体化するプログラムについてお話をしたいと思います。市内の小学生あるいは高校生が参加するプログラムとなっております。高校生の新聞部による新聞記者体験、それからテレビ番組の制作現場の雰囲気を感じるバックヤードツアー、また招待選手をスタートラインまで案内するエスコートキッズプログラムを用意しております。

次の「スポーツのまちに集う全ての人に健康と喜びをもたらす大会となす」というコンセプトの具体化のプログラムでございますが、これらはコース沿道の区役所が中心となりまして、地元の団体や学校によるランナー応援イベントを実施するほか、昨年一般（サブ4）の部で市内在住の男女各上位5名、合計10名を今大会の一般フルマラソンの部にご招待いたしております。

次に、おもてなしの部分でございますけれども、これを具体化したプログラムとしましては、昨年も開催いたしましたけれども、「埼玉うまいもの市場」をけやきひろばで開催します。また、消防音楽隊によりましてセレモニーや壮行演奏を実施してまいります。

同時に行われます「埼玉うまいもの市場」についてでございますけれど

も、11月11日金曜日から大会当日の13日日曜日までけやきひろばで開催いたします。さいたま市内を初めとする埼玉県内の魅力ある食べ物や飲み物、物産等の店舗が54団体52ブース出店いたしまして、全国から集まるランナーや観客をもてなし、さいたま市の魅力を発信してまいります。会場内では、盛りだくさんのステージアトラクション、パブリックビューイング、一般マラソンの表彰式なども行う予定となっております。

次に、昨年もフルマラソンのランナーから好評をいただきました沿道応援についてもことしも行います。沿道の区役所が中心となりまして、ごらんの9カ所におきまして、地元の団体でありますとか学校がランナーを応援する演奏やパフォーマンスを実施します。

次に、ボランティアについてでございます。ことしは昨年の大会と比べましてフルマラソンの制限時間を延長させていただきました。また、参加人数が大幅に増えました。また、大会も2日間にわたるなど規模も拡大しているということで、このボランティアの数を増やしております。ボランティアの役割として、ランナーの受付やコース整理、給水サービスなどがございます。ボランティアの皆様のご協力なくして大会の成功はないと思っております。ボランティアの皆様の活動をサポートし、万全の体制で臨んでまいりたいと思っております。

次に、交通沿道対策についてご説明をさせていただきます。コースや迂回路に当たります一般道路や首都高速道路に交通規制告知看板あるいは横断幕を設置するほか、路線バスの停留所等に運休や迂回の案内を掲出いたします。市報9月号と一緒に交通規制チラシを市内に全戸配布いたしました。コース沿道の自治会では、迂回路図の回覧を依頼しております。駅周辺で交通規制告知チラシの配布、コース沿道事業所等を訪問しまして、交通規制に関する協力を依頼しております。ランニングポリスも走ると伺っております。ことしも埼玉県警察とともに万全の体制で臨んでまいりたいと思っております。

議題の1については以上です。

市長発表：議題2「若年性認知症の方への支援強化～集いの場や相談窓口を拡大しました～」

続きまして、議題2「若年性認知症の方への支援強化～集いの場や相談

窓口を拡大しました～」について説明をさせていただきます。

7月の定例記者会見では、65歳以上の高齢者を対象といたしまして、認知症の早期発見、早期診断を目的といたします「もの忘れ検診事業」について紹介をさせていただきました。今回は、65歳未満の方向けの認知症施策についてご紹介させていただきます。

まず、さいたま市の認知症高齢者数の現状と将来推計のグラフでございます。本市では、認知症高齢者数が平成27年度は約2万4,000人、高齢者人口比で8.8%でございます。過去の推移を見ますと、毎年1,000人程度の規模で認知症高齢者が増加いたします。今後75歳以上の人口の増加に伴いまして、平成37年、2025年には3万8,000人に達する見込みとなっております。一方、若年性の認知症の方は平成27年度は485人、以降徐々に増加をしまして、平成37年には520人となる見込みでございます。これらはあくまでも介護保険データで把握している推計値でございますので、潜在的にはより多くの方々が何らかの認知症を患っていると推測されます。

続きまして、まず若年性認知症についてご説明をしたいと思います。そもそも若年性認知症とは、65歳未満で発症する認知症の総称として定義をされております。

高齢期の認知症との違いでございますが、若年性認知症の特徴としましては次のようなものがございます。脳卒中が原因で起こる脳血管性の認知症が最も多いということでありまして。高齢者の場合は、アルツハイマー型の認知症が最も多いということになっております。

若年性認知症に関する理解が乏しく、認知機能が低下しても発見が遅れることが多いということがございます。また、本人や配偶者が現役世代であるために、就労、子育て、あるいは介護など複合的な問題が発生するということが特徴でございます。こういった特徴がありますので、若年性認知症の方やそのご家族はさまざまな課題に直面いたしております。

直面している課題は、次のようなものでございます。症状が進行していくことによりまして、健康面や将来的な不安がございます。また、退職に伴う収入の減少による経済的な不安というものもございます。そして、周囲の理解不足やみずからの症状への不安による社会参加機会の不足という

こともございます。そして、親の介護と重なる複数介護ということによりまして、介護負担が増大するといったことがございます。このように、若年性認知症では高齢期の認知症とは異なる課題を抱えているという部分がございます。

また、若年性認知症の方は高齢者と同じサービスを利用することに抵抗を感じているという方も多い傾向がございます。一方で、若年性認知症の支援体制は全国的にも十分ではないのが現状でございます。

こうした状況を踏まえまして、本市では若年性認知症支援を全体の認知症の施策、全体的なこういった総合的な支援の一つとして、この赤い部分が若年性認知症支援でございますけれども、全体の中の一つということで位置づけております。この図は、認知症の進行段階に応じまして、本市が実施している認知症施策がどの段階の支援に対応するかを整理したものでございます。

今回紹介いたします若年性認知症支援事業は、若年性認知症の方で主に気づき、診断の段階を過ぎていて、日常、在宅ケア段階以降の方をサポートすることが主眼になっております。

国におきましては、平成27年に策定いたしました認知症施策推進総合戦略、いわゆる新オレンジプランにおきまして、若年性認知症支援策の強化を7つの柱の一つと位置づけております。本市では、平成23年度からモデル事業を開始いたしました。月2回の集いの場の開設、それから医療相談を開始いたしております。平成26年度には、集いの場を週1回に増設いたしました。そして、平成27年度には集いの延べ参加者数は109人となりまして、電話相談件数は25件でございます。

このモデル事業は、参加者の家族からは非常に好評であり、また参加者本人に生活に対する前向きな意欲が生まれるなどの効果が得られました。専門医からも、集いにおける活動が認知症の進行抑制に効果があるご指摘もいただいているところであります。また、市としても若年性認知症の発症後に孤立したまま支援につながらないといったことがないように相談体制の充実の必要性を認識いたしております。そのために、平成28年10月から若年性認知症支援事業といたしまして集いの場を週2回に増設し、そして電話相談を平日の午前9時から午後5時までに拡充しまして、

広く一般の方々に周知を開始しております。

それでは、若年性認知症支援事業の内容についてご説明いたします。この事業は、NPO法人への業務委託により実施いたします。まず、集いの場の設置についてでございますけれども、集いの場では若年性の認知症の方々が集い、互いに交流しながら、年賀状などの作品づくりや畑作業、散策などを行います。スタッフは、参加者の個性や持てる能力を生かしまして、参加者の活動をサポートしていきます。集いの場が一つの居場所となって、社会参加と自立支援の場として機能することを期待しております。

開催日時につきましては、原則毎週水曜日と金曜日、週2回で、時間は午前10時から午後3時まででございます。場所は浦和区常盤です。対象は40歳以上の市民で若年性認知症の方です。定員は(各回6名)、利用料は無料となっております。

これは、集いの場のある日のタイムスケジュールです。10時に集合した後、午前中はまちの清掃活動や散策を行う。昼は外食をしたり集いの場でお弁当を食べる。午後はそれぞれの参加者に応じた作業に取り組んでいただきます。こちらは参加者の作品例ということでございまして、新聞紙等を用いましてオリジナルのだるまを作成したり、散策で集めました葉っぱや木の実を使ってはがきを作成したりしています。このスケジュールはあくまでも一例でございますけれども、年末は1日通して年賀状の作成などに取り組んだりもしております。

次に、電話相談についてでございます。28年の10月から専門職の専従スタッフを配置しまして、若年性認知症の方やそのご家族からの電話相談によりまして、各種支援制度や、また専門医療相談につなぐということをやっております。受付時間は平日の午前9時から午後5時までであります。

次に、専門医療相談についてでございます。これは、毎月第2水曜日の午後6時から7時まで、事前予約が必要となります。医師は、南魚沼市立ゆきぐに大和病院の全国若年性認知症家族会・支援者連絡協議会の会長であります宮永和夫先生が(相談)いたしてくれます。

このほか、新たな取り組みとして、区役所職員やシニアサポートセンター職員、また介護支援専門員等を対象にしまして、若年性認知症について

の医療、介護、福祉等に関する研修を実施いたしまして、各窓口の対応力向上を目指してまいります。

そして、若年性認知症支援事業の実施によりまして期待される効果でありますけれども、1つ目は集いの場への参加によりまして、本人が役割や生きがいを持ち、また自立した生活を継続できるという効果であります。2つ目は、集いの場への参加によりまして、若年性認知症になっても孤立せずに社会参加ができるということであります。3つ目は、電話相談の充実や専門医療相談によりまして、介護者の負担を軽減できるということであります。そして、4つ目はこの事業を通じまして、地域や専門職の若年性認知症に対する理解の促進を図ることができると考えております。そして、5つ目としましては、これは今後の課題でもございますけれども、相談窓口の周知を通じまして、若年性の認知症の早期発見を推進することで支援を発症の早期から開始して認知症の進行を早い段階で抑制していく、食いとめていくという効果も期待をしているところであります。

さいたま市は、認知症になっても住みなれた地域で自分らしく暮らし続けることができるように、認知症の総合的な支援にさらに取り組んでまいりたいと思います。

私からは以上です。

○ 読売新聞 どうもありがとうございました。

今の市長の御説明について各社質問がありましたらお願いいたします。

議題1に関する質問

○ 東京新聞 東京新聞です。

マラソンについてなんですけれども、マラソンは全国的にも大小さまざまな大会が行われていると思うんですが、特にさいたまのマラソンの特徴や魅力といったものが教えていただければと思います。

○ 市長 まず、さいたま国際マラソンについては、2つの大きな役割があると考えています。1つは、女子のエリートレースであるということです。これは、ことしもロンドンの世界選手権の代表選考レースということもございます。まさに将来オリンピックに出場するような、そういった選手を発掘する、育成をしていくエリートレースであるという役割です。それから、2つ目が市民マラソンということです。ことしは昨年よりも制限時間を

4 時間から 6 時間に延ばし、また出場者数を 5, 0 0 0 から 1 万 6, 0 0 0 で 3. 1 倍に増やしました。そういう意味では、エリートレースと市民マラソンという 2 つの要素を持つマラソンであるということがその魅力の一つではないかと思っております。

○ 東京新聞 もう一点なんですけれども、今の関連ですが、特に昨年から大きく変えたところというのがもしあればお願いします。

○ 市 長 一番大きいのは、参加者数が 2 万人を超えるという規模になりました。特にフルマラソンについては、昨年は 5, 0 0 0 人でありましたけれども、これを 3 倍以上増やしまして 1 万 6, 0 0 0 人になりました。制限時間を延ばしたことで、4 時間というレースではなかなか参加できなかった市民の皆さんが、少しというか練習をそれなりにすれば、参加ができて完走ができるという手の届く大会になったということがあろうかと思えます。そういう意味で、この大会を目指して日ごろからたくさん練習をして、また参加してくれる方が増えるということを期待しております。

それからもう一つ、8 キロメートルの部。前はフルマラソンと、もう一つが 3 キロと 1. 5 キロだったと思いますけれども、その間がないということで、できればその間ぐらい、ハーフないし 1 0 キロ前後の設定ができないかといったご要望もありましたので、今回は 8 キロを設定させていただきました。この 8 キロについても、おかげさまで早く埋まりました。

それから、もう一つが 2 日間に分かれて行われるということで、前日は駒場ファンランで、どちらかという日曜日の部が競技性がやや高いということが言えると思うのですが、1 日目はみんなで楽しく走ることがテーマとなって、親子であったり、あるいは小中学生であったり、あるいはチームで楽しみながら走るということを目的にして行われる大会になっておりまして、これらが大きく違うのかと思います。

○ 埼玉新聞 埼玉新聞と申します。

マラソンに関しまして 2 点お伺いいたします。清水市長は、既に今回のフルマラソン、ご自身で参加を表明されていらっしゃると思いますが、現在の調子ですとか、目標ですとか、臨むお気持ちみたいなものをお聞かせいただければ、これが 1 点です。

もう一点は、大会を支えるボランティアなんですけれども、ここにある

資料を見ると（4,700人）になるのですかね、2日間ということで。華やかなレースを支える、すごく地味な仕事と言ったら大変申しわけないんですが、やっぱり非常に重要な仕事に、拘束時間も非常に長くなるかと思うのですが、そこにこれだけの大勢の人数が市内外から参加されていることにつきまして、受けとめと期待されること、そのあたりをお聞かせいただけますでしょうか。

○ 市 長

まず、フルマラソンの参加についてでございますが、まず今回4時間から6時間に制限時間が伸びたということで、私のような、年齢もう既に54歳でございますので、中高年に差しかかろうという世代の市民でも、練習をすれば参加ができるということと、あとやはり健康に非常にプラスになるということをぜひ市民の皆さんに知っていただきたいという思いがありまして、今年年が明けてから練習を始めてきましたけれども、何とか調子としては順調に上がってきているかと思えます。

制限時間内での完走というのが目標でございますが、人生で初めてフルマラソンのこういった大会に出て挑戦をするので、自分としてはどこまでどう走れるかまだわかりませんが、何とか完走していきたいと思っております。

それから期待することは、そういう意味では比較的私の出場もそうだけれども、市民から手の届きやすい大会になっていると思っておりますし、私も練習をしている際に、練習しているランナーの皆さんとかなりすれ違ったり、あるいは同じように走ったりというようなことに出くわします。非常にマラソンをされている方が増えていると実感するとともに、やはりこのフルマラソンが「スポーツのまち さいたま市」としてのシンボリックな事業、週に1回以上スポーツをする市民の割合を70%以上という大きな目標を立てておりますので、そういう走ることの楽しさ、あるいは体を動かすことの楽しさをそれによって知っていただきたいと思っております。

それから、ボランティアについてでございます。今回参加人数も増え、また制限時間も増えたということで、たくさんのボランティアが必要ということもありますし、お願いをして募集をしたところであります。目標としては7,000名としておりましたが、そこまでは届きませんでしたけれども、5,000人に近い、10月12日現在という数字で4,748名

の申し込みがございます。

それから、これ以外にも、ことしからジュニアボランティアということで、10月6日現在でございますけれども、22組69名、小学校5年生から中学3年生の児童生徒が、参加をしてくれるということは、大変うれしいことであり、ありがたいことだと思っております。

2020年に東京オリンピック・パラリンピック大会を控えていて、私たちは市民全員でおもてなしができるような、そんなオリンピックにしたいという目標もあり、このマラソン大会などを通じまして、多くの選手たちとボランティアの皆さんも交流をしていただきたいし、大会を支えていただきたいと思っております。

私もさいたまシティマラソンを、ハーフマラソンでしたけれども、何度か走らせていただいて、そのマラソンを走るということの魅力の一つは、沿道で応援してくださる観客ということもありますし、また大会を支えてくださるボランティアの皆さんとの交流であるとか、あるいは触れ合いみたいな場面が随所にあります。水をとる場所であるとか、いろいろな場所でそういった場面に出くわしたり、あるいはそこでたくさんの方々からエールを送ってもらうことでモチベーションが高まって、ふだん以上の頑張りを見せてみんな走りきると。そこがまた、このマラソン大会の魅力にもつながっております。この5,000名近いボランティアの皆さんにこの大会を支えていただいて、ランナーと一緒にこの大会を盛り上げていただきたいと思っておりますし、そのことがまたボランティアとして支えてくださった皆さんにもプラスになっていくと思っております。

あわせて、心から感謝をしております。

○ 読売新聞

私のほうから1点よろしいでしょうか。

今回エントリー状況が発表されておりますけれども、このエントリー状況については、改めてどのようにごらんになりますでしょうか。

○ 市長

全体としては、やはり今一番人気が高いのがフルマラソンでありまして、一番数が多いわけですが、フルマラソンから埋まっていくというような傾向があって、その次に中距離、そしてどちらかというと短い距離については、その次ぐらいの役割になっているという感じがしています。

もう一つはリレーマラソンについては、必ずしも私たちのほうも十分に

その楽しさとか魅力をまだまだお伝えし切れていない、あるいはやり方がちょっと十分に知られていないということもあろうかと思えますけれども、複数の人たちが参加をして、まさにチームワークで走っていくというようなマラソンでありますので、駅伝とかとは少し違いますけれども、グループ同士の親睦を深めたり、交流を深めたりということにもプラスになりますので、そこは十分伝えられなかったということで、まだまだお伝えの仕方等々、改良の余地はあるのかと思っております。

ただ、全体で2万人を超える大会になったということは、これはもうなんと言ってもすごいことだと、さいたま市が関わるマラソン大会としては、過去最大のマラソン大会になったということでもあります。

- 読売新聞 ありがとうございます。
ほかにいかがでしょうか。マラソン以外、若年性認知症対策などでございましたら。

議題2に関する質問

- 東京新聞 認知症のほうなんですけれども、東京新聞です。
集いの場のほうなんです、今までも週1回やっていたということなんですけれども、今までの参加状況というのはどういったものだったでしょうか。
- 市 長 参加状況でございますけれども、週（1）回に増設をした平成26年度以降については年間延べ参加者数で、26年度は122名、27年度では109名でございます。実利用者数でいきますと、毎年3名から4名の利用者になります。
モデル的に実施していたために、余り広く周知できなかったというところもありますけれども、今後はさらに周知を強化してやっていきたいと考えております。
- 東京新聞 となると、今まで特に足りなかったから2回に増やすというわけではなくて、2回に増やして、さらに広報していくことで、より多くの人に参加していただくという形になるんですか。
- 市 長 そうです。そういうことになります。
- 読売新聞 若年性認知症の関係で、先ほど少し数字が出ておりましたけれども、ページで言いますとスライドの14枚目でしょうか。市内でこの若年性認知

症を発症しておられる方、グラフがありますけれども、バックデータでもしおわかりになりましたら、もう一度お教えいただけますでしょうか。

○ 事務局

若年性認知症の方につきましては、平成27年度は485人、以降徐々に増加いたしまして37年、2025年で520人になる見込みでございます。ただし、先ほども申し上げましたが、あくまでもこれは介護保険データに基づくものでございまして、潜在的にはより多くの方がいらっしゃるものと推測をしております。

以上です。

幹事社質問：直前に迫った「さいたまクリテリウム」への意気込みと期待について

○ 読売新聞

ほかいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、幹事社から幹事社質問をさせていただきます。質問はまとめて行いたいと思います。

こちらから1点ございまして、今週の土曜日、ツール・ド・フランスさいたまクリテリウムが開催される予定ですが、これについて改めて意気込みとか、期待することなどをお聞かせください。よろしくお願ひします。

○ 市長

それでは、幹事社のご質問にお答えしたいと思います。

ことしで4回目を迎えますJ:COM presents 2016 ツール・ド・フランスさいたまクリテリウムについて、ことしは、過去3回の大会にもさらに増して、ツール・ド・フランス本大会で4つの賞、総合優勝、それから新人賞、ポイント賞、山岳賞を受賞しました選手が一堂に会して競われるということでありまして、これは本当に画期的な大会、すごいことだろうと思います。

また、あわせて直前にドーハで行われましたロードレースの世界選手権での優勝者もその中に含まれているということでもありますけれども、大変豪華なメンバーで大会が行われるということで、私も期待でわくわく胸弾んでいるというところであります。

また、あわせてリオデジャネイロオリンピック・パラリンピックで活躍されて、メダルを獲得された選手も出場したり、また個人タイムトライアルレースにパラリンピックで活躍したパラサイクリングの選手、あるいは

今期待されております女子選手、また4年後の東京オリンピックを見据えまして、16歳、17歳の男子のジュニア選手も参加をするということで、現状として最もすごい人たちが集まるとともに、将来を見据えて、将来も大変期待できる、そういった夢のある選手たちがたくさん来て、今回クリテリウムを盛り上げていただく。選手たちの大変熱い走りを観客の皆さんに見ていただけるということで、私たちも大変うれしく思っているところであります。

また、ことしは、これまでも増して地域との連携を深めていこうということで、商店街連携部会と自転車まちづくり部会を立ち上げるなどいたしまして、大会前のPRにも力を入れてまいりました。市内全域で大会を盛り上げていただいておりますので、こういったものが来場者数にも反映されていくということを期待しております。若干天気心配も、朝のうち雨が残るのではないかとという予報もありますけれども、メインレースのころには雨はやむようでありますので、沿道でたくさんの皆さんとこのレースの行方を見守りながら、そして迫力ある、またスピード感のあるレースを見ながら、またさいたまのしゅやサイクルフェスタで楽しんで一日を過ごしていただきたいと思っております。

○ 読売新聞 ありがとうございます。

この点の質問について、各社ありましたらお願いいたします。

幹事社質問に関する質問

○ 朝日新聞 朝日新聞です。

クリテリウムに関しては、世界への発信というところもひとつ大きな目的だと思うんですけども、今回も世界各国へ放送されるということで、またその辺の効果測定というか、どういう、どのぐらい世界に見てもらったとか、さいたまがPRできたかとか、そういうものを測る予定とかというのはあるんでしょうか。

○ 市長 毎回基本的にはやっていて、国内と国外とあわせて広告効果という形で、どうしても経済波及効果を皆さん注目されますけれども、去年も10億3,500万円の効果があって、171カ国に配信されました。ことしは、やはり同等ぐらいの配信先、170近い国に配信されて、いろいろな形で報道されるということが期待されております。

また、イノーさんがこれまでツール・ド・フランスのアンバサダーという役割を担って大会を盛り上げ、また監修をされていたわけでありすけれども、今回でご勇退されると聞いております。

イノーさんがツール・ド・フランスという表舞台に登場するという意味では最後ということになりますので、国内はもちろんですけれども、世界中からも注目されるのではないかと考えております。

○ 読売新聞

ありがとうございます。

そのほかクリテリウムの関係ございますでしょうか。

なければ、このほかの質問ある方はお願いいたします。各社個別に質問ございましたら。

その他：浦和レッズについて

○ 埼玉新聞

埼玉新聞です。

先ほど市長の冒頭のご発言でありましたが、浦和レッズなんですけれども、29日に何らかの形で、セカンドシーズンの優勝が決まる可能性が非常に高いということで、改めましてレッズに関して激励の一言みたいなものをいただければ。

○ 市長

ここ二、三年、私も含めて市民、あるいはサポーターの皆さんが待ち望んでいることでもあります。まずは、今週末にはセカンドステージ、できれば年間1位も決まるといいと思っておりますけれども、セカンドステージに優勝するということは、その第一歩だと思いますので、それを期待したい。そして、市民とともに喜びを分かち合いたいと思っております。非常に期待をしております。

○ 読売新聞

ほかにはいかがですか。

その他：さいたまトリエンナーレについて

○ 朝日新聞

朝日新聞と申します。

ちょっと開会中のトリエンナーレについて伺いたいのですが、先日来議会でご担当の職員の方の時間外勤務の長さ等を指摘する方がいらして、市長は先週末以来ご対応とられたりなさっていると思うんですけれども、またディレクターの芹沢さんをお呼びになってお話を伺うとか、現在開会中の市の主催事業についていろいろ議会のほうから疑問を呈されたりとかというような状況になっているんですけれども、もちろん首長と議会それぞれ

れ独立した存在ですので、直接何かをおっしゃりにくいかと思うのですが、市長が実行委員長を務めるような市の主催事業について、開会中にそういうようないろんな疑問が呈されるという状況について、どのように受けとめていらっしゃるかというのを伺えればと思います。

○ 市長 議会は議会としての権能がございますので、その中にご審議をいただくということは大変重要だと思いますし、その審議の内容等については、私たちとしても重く受けとめていきたいと思っております。

もう一方で、今まさにやっている最中でもございますので、私たちとしてはとにかく12月11日までの開催でございますので、多くの市民の皆さんや市外からもたくさんの皆さんに来ていただいて、この作品を見ていただく、それからともにつくり上げていただく、参加いただく、そういったイベントにしようということで全力を挙げて取り組んでおりますので、反省すべきは反省をしながら、改良すべきは改良しながら、しっかりと運営をし、多くの方々に来ていただけるようにしていきたいと思っております。

○ 読売新聞 よろしいでしょうか。

その他：東京オリンピックのカヌー・ボート会場について

○ 埼玉新聞 埼玉新聞と申します。

2020年の東京オリンピックについてお伺いします。ボート競技の会場が、ちょっと見直すということで小池都知事のほうで話が出ていまして、その代替案といえますか、そこで彩湖、さいたま市も一部かかっているかと思うのですが、彩湖を利用するという案が浮上しております。これにつきまして幾つかの自治体とかで、もう既に署名活動ですとか、いろんな活動が始まっているかと思うのですが、まずこの彩湖が会場の案の一つということで浮上していることについての受けとめと、さいたま市でこれから何かとって行く行動がありましたら教えていただけますでしょうか。

○ 市長 現在東京都におきまして、競技会場の建設見直しというものが検討され、カヌー・ボート会場もその対象に含まれているということにつきましては、本市としても承知をしております。

彩湖は平成9年に完成をして、周辺の豊かな自然、これは市民の心を癒

すとともにサイクリングであるとかウォーキングなど、さまざまなスポーツも楽しめる場となっております。

そんな中で、今回そういったお話が浮上し、埼玉県ではボート・カヌー会場検討プロジェクトチームを設置して、コース設定であるとか整備費等の試算、実施する場合の課題について検討して、10月中を目途に東京都及び公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会に報告をするということでございます。

市としては、埼玉県とそれらの情報共有を図りながら、東京都及び大会組織委員会の動向を注視していきたいと思っております。

- **埼玉新聞** 注視という言葉が出たんですが、具体的に特に活動、最寄り駅は桜区の西浦和ということらしいのですけれども、特に市として何か積極的に活躍するというお考えはありますでしょうか。
- **市長** 現時点では、いろいろな選択肢がある中で、県と連携をしながら、協力できるところは協力していくということだろうと思っておりますけれども。
- **読売新聞** あとはいかがでしょうか。
各社からの個別の質問は以上となります。
記者からの質問は、以上で終了させていただきます。
- **進行** 以上をもちまして市長定例記者会見を終了させていただきます。
次回の開催は11月10日木曜日、1時半からを予定しておりますので、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

午後2時22分閉会

※この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣い、話し言葉などを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については（ ）とし、下線を付しています。